

スポーツ学部 こどもスポーツ教育学科 カリキュラムツリー(2024年度以降入学生)

●学部共通科目 ●児童教育科目 ●スポーツ教育科目 ●ゼミナール科目 ●スポーツ実技科目 ○教職関連科目

**教育課程編成・実施の方針 (CP)**

こどもスポーツ教育学科は、大学の教育課程編成・実施の方針 (CP) に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

**【教育内容】**

1. ①キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、児童・生徒に対する教育およびスポーツの文化に関する幅広い知識を身に付け、教育や地域社会に貢献できる専門知識と実践力を養う科目を配置する。

2. ②専門教育科目は、「学部共通科目」「児童教育科目」「スポーツ教育科目」「ゼミナール科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるように科目を配置する。児童・生徒に対する教育およびスポーツの文化の理論知・実践知を身に付け、学年を重ねるにつれてそれらを応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。

3. ③ゼミナール科目は、2年次より少人数クラスで展開し、4年次に卒業研究に取り組む科目として配置する。

これらの科目を通して、専門的知識・技能を身に付けるとともに、「コミュニケーション能力」、「企画・計画力」、「判断力」、「実践力」、「問題解決能力」、「倫理観」を育む。

**【教育方法】**

1. ④体系的な学びの力を高めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。

2. ⑤習・実習においてはグループ学修を取り入れ、協調性を身に付けるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する能力を育成する教育を実施する。

3. ⑥実習研究は、身に付けた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。

**【教育評価】**

1. ⑦授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。

2. ⑧年間の学修成果は、卒業研究 (必修) によって行い、総合的に評価する。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<b>総合共通科目</b>	教養教育科目「○現代国家と法 (日本国憲法)」など 言語・異文化理解科目「●英語Ⅰ」「●英語Ⅱ」「○英語コミュニケーションⅠ」「○英語コミュニケーションⅡ」など 情報教育科目「●データサイエンス入門」「○情報処理演習Ⅰ」「○情報処理演習Ⅱ」など キャリア教育科目「●キャリアデザインⅠ」「●キャリアデザインⅡ」など キャリア教育科目「●キャリア基礎演習Ⅰ」「●キャリア基礎演習Ⅱ」「●キャリア基礎演習Ⅲ」							
<b>学部共通科目</b>	○解剖生理学 ○スポーツ運動学(運動方法学を含む) ●スポーツ指導論 ○スポーツ生理学 ○スポーツバイオメカニクス ○スポーツ社会学 ○スポーツ心理学 ●安全・健康管理 ○スポーツ栄養学 ○体力トレーニング論 ●レクリエーション論							
<b>児童教育科目</b>	○体育科教育概論 ○図画工作指導法 ○生活科指導法 ○家庭科指導法 ○体育科指導法 ●水泳指導法 ●ダンス指導法 ○国語科教育概論(書写を含む) ○国語科指導法 ○理科教育概論 ○理科指導法 ○社会科教育概論 ○社会科指導法 ○算数科教育概論 ○算数科指導法 ○児童英語概論 ○児童英語指導法 ○音楽科教育概論 ○音楽科指導法 ●キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅰ ●キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅱ ●キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅲ ●キャリアアドバンス教員養成(初等)Ⅳ							
<b>専門教育科目</b>	○衛生学及び公衆衛生学 ●スポーツ教育概論 ○学校体育のマネジメント ●学校体育指導演習 ●器械運動指導法(体づくり運動を含む) ●陸上競技指導法 ●球技指導法A ●球技指導法B ●武道指導法 ●学校保健指導演習 ○学校保健Ⅰ(学校安全を含む) ○学校保健Ⅱ(小児保健を含む) ○精神保健 ●ジュニアスポーツ論 ●ジュニアスポーツ指導演習 ○救急処置							
<b>ゼミナール科目</b>	●ゼミナールⅠ ●ゼミナールⅡ ●ゼミナールⅢ ●ゼミナールⅣ ●キャリア発展ゼミナール							
<b>スポーツ実技科目</b>	○体操(体づくり運動を含む) ○陸上競技A ○バスケットボール ○サッカー ○器械運動 ○陸上競技B ○水泳 ○バレーボール ●バドミントン ○ダンス ○剣道 ○柔道 ○ソフトボール・野球 ○テニス ●レクリエーション実技							
<b>自由選択科目</b>	「○教職論」「○教育原論」「○教育心理学」「○特別支援教育概論」「○教育制度論」「○教育課程論」「○道徳教育指導法」「○教育方法論(情報通信技術の活用を含む。)」 「○特別活動・総合的な学習の時間指導法」「○生徒・進路指導論」「○教育相談」 「●学校体験活動」「○教育実習(小)」「○教育実習事前事後指導(小)」「○教職実践演習(小・中・高)」 他学部・他学科等の履修科目							
<b>自由科目</b>	教職課程関連科目 「○保健体育科教育法Ⅰ」「○保健体育科教育法Ⅱ」「○保健体育科教育法Ⅲ」「○保健体育科教育法Ⅳ」「○教育実習Ⅰ(中・高)」「○教育実習Ⅱ(中・高)」「○教育実習事前事後指導(中・高)」 K-CIP関連科目							

**卒業認定・学位授与の方針 (DP)**

こどもスポーツ教育学科は、総合的な教養、児童・生徒に対する教育の専門知識を身に付け、スポーツの文化に関する幅広い知識を基盤とした確かな実践力と高い適応性を有する教育者・支援者を養成することを旨とする。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。

**【知識・技能】**  
 学士(こどもスポーツ教育学)として相応しい幅広い教養を身に付け、児童・生徒に対する教育の専門知識とスポーツの文化を伝える技能を身に付けている。

**【思考力・判断力・表現力】**  
 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身に付けている。また、礼節を重んじ高い力量をもつ教育者の素養を身に付け、地域社会の中で率先して行動できる力を身に付けている。

**【主体性・協働性・倫理性】**  
 実践力を備えた教育者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身に付けている。